



# Little Diamonds

## YOUTH

2005シーズン  
3年生卒業記念号



# いつまでも 心に赤いエンブレムを

## レッズユース卒業おめでとう

### 大学からプロへ。期待してます

浦和レッズGM(ゼネラルマネージャー) 中村修三

みなさんに「サッカーも勉強もしっかりしなさい」と言った記憶がありますが、プロに上がった3人以外全員が大学に進むという、努力の結果をうれしく思います。これでプロへの道が終わった訳ではないので、大学でも本当に頑張ってください。大学に進んだみなさんが4年後、プロとしてレッズに戻ってきてくれることを心から願っています。

### サッカーを生かす道考えて

育成担当統括・村松 浩

3人がプロに上がり、他のほぼ全員が大学に進めたので、それぞれの場所で活躍できるように努力してほしいと思います。レッズでプロになれなかったから、そこで終わりではありません。4年後にプロになれる可能性もあるし、プロ選手以外にもサッカーを生かしていける道を考えて過ごしてほしいと思います。

力がありながら上に進めなかったクラブユースと高円宮杯は、もし勝ち進んでいたらどうなっていたかな、という意味で思い出があります。そして私自身は、2年生のときのみなさんを中心に監督としてJユースカップを戦った経験があります。みなさんの成長を感じ、翌年に期待が持てるな、と思いながらやっていた時期でした。

### これからも高い目標を持って

監督・広瀬 治

みなさんは、レッズでやっていたときはプロを目指していた訳で、大学で活動するときも高い目標を持って、サッカーも生活も頑張ってください。レッズで学んだいろいろなことを自分の判断で生かして、プレーする場所が変わっても、いいものをイメージしながら大好きなサッカーに生かせるように、一日一日を過ごしてください。レッズのスタッフも大学リーグを見に行きますから、またレッズの一員になれるように努力してほしいと思います。

大会では、クラブユースと高円宮杯の決勝トーナメント1回戦で負けてしまったのが残念です。力のある選手が多かったのに、それ以上のものを経験させてあげられなかったことは私自身の反省でもあり、申し訳なく思いますが、みなさんはあの悔しさを今後に生かしてほしいと思います。

### 浦和レッズ魂忘れないで

コーチ・堀 孝史

卒業おめでとうございます。これからいろいろなことをみんな経験すると思いますが、ここで培ったことを生かし、浦和レッズ魂を忘れずに、立派な人になってください。

全国大会であまり良い成績を残せなかったのが申し訳なく思いますが、自分の経験を伝えることはできましたし、みなさんに勉強させてもらったこともあります。楽しかったです。

### たくましさ、次のステージでも

GKコーチ・澤村公康

僕がレッズに来た年に一年生だったみなさんなので、ひととき思い出があります。サッカーがうまい選手がそろっているな、というのが第一印象だったんですが、人間的にはまだまだだな、と思いました。中三から高校生になったばかりなので無理もないですが、社会に出てから通用するところを伝えたいと思って3年間接してきました。仲良しサッカーではなくて、とことん嫌われてもいいから、何年か後に「ああ、こういうことを言っていたんだな」と実感してもらえればいいと思っていました。3年間でずいぶんたくましさが出てきたと思いますし、サッカーに携わる携わらないに関係なく、みなさんの次のステージでも生かしてくれればと思います。

### これからの人生の発展を

トレーナー・安齋 健太郎

一番心に残っているのは、高円宮杯の最後の試合、星稜高戦です。このチームでは最後になる、ということが頭にありましたから、どうしても勝ってほしいという気持ちがあり、勝つために選手により良い環境で試合をやってもらおうという手を出しました。終わってから選手たちの悔しがつる姿、悲しんでる姿を見て、僕も心を打たれたんですが、ああいうことが今後みなさんの前に出てくると思うので、サッカーだけでなく、これからの人生の発展を期待しています。

### 思い出深いFC東京戦

育成スタッフ・児玉 賢太郎

僕が一番思い出深いのは、クラブユースの関東大会の順位決定戦でFC東京に勝った試合です。前半に1人退場になり、1-2で負けていてロスタイムに堤のヘディングシュートで追いついてPK勝ちしました。もう全国大会は決まっていたんですが、負けたくないというか、闘う気持ちが前面に出ていてチームが一つになったと感じた試合です。



## また赤いユニフォームを着たい

### 市川雄太郎 (FW)



(1) 一年生の夏 ドイツ遠征でのシュツットガルト戦：あの遠征は自分を変えてくれたもので、その遠征で最も白熱したものだったから。二年のプリンスリーグでの武南戦：ハットトリックを達成できたから。(2) 監督・コーチ・先輩・後輩・友人・プロの方々と接し、いろいろと学ぶことができたこと。海外遠征。(3) メンタル・技術(4) 戸田大学に進学できたので まずはレギュラーを奪い、試合に出て活躍したい。そして4年後にはレズに戻ってきて、またこの赤いユニフォームを着たい。(5) 3年間という短い間でしたが本当にお世話になりました。レズのおかげで自分はとても成長できたと思います。それから素晴らしいみんなと出会えたのもレズだからだと思っています。皆さんありがとうございました。それから、ユースや僕を応援してくださった皆さんにも感謝の気持ちでいっぱいです。本当に3年間ありがとうございました。これから頑張りますので見守ってください。(6) 辞手西中



## 大学で納得するまでサッカーを

### 宇賀神友弥 (MF)



(1) 三年生の夏 クラブユースのアルディージャ戦。理由は自分が警告累積で試合に出られなくて負けてしまったことに後悔しているからです。(2) 一年生のときに行ったドイツ遠征。自分が悪いことをしたのですが、澤村コーチにみっちりし

ごかれました。でも今ではいい思い出になりました。三年生で集まったときにはたいがいこの話で盛り上がります。(3) 礼儀をしっかりするとか、人間として当たり前のことをできるようになったと思います。(4) 大学で自分の納得するまでサッカーをして、将来につながればいいと思います。(5) 浦和レッズに入って6年間、本当にいろいろな人にお世話になったと思います。こんな恵まれた環境でサッカーをやらせてもらったことに感謝しています。これからも親に感謝しながらサッカーをしていきたいです。本当に6年間ありがとうございました。(6) レズジュニアユース

## 将来はGKコーチを目指したい

### 大橋基史 (GK)



(1) 二年生のときのクラブユースのサンフレッチェ広島ユース戦。良い意味で一番自分自身の持っている実力をほぼ出し切ることができ、GKとして上を目指すための自信につながった試合だった。自分のミスで負けてしまったけれど、それを糧に成長していきたいです。(2) 一年生の夏のドイツ遠征が特に思い出に残っています。厳しいことも多くあって、苦しい経験でしたが、サッカーに対する考え方や生活面の大事さなどを多く感じる遠征だったので良かったと思います。あとはふだんの生活や試合の移動のときなどで仲間と過ごした時間は思い出に残っています。(3) 技術的にも上達したと思いますが、精神的に強くなったと思うし、いろいろなことをプラスに考えられるようになったと思います。(4) まずは流通経済大学でスタメンを目指したいです。そして4年間努力してプロになりたい。現役を終えたらGKコーチを目指していきたいと思っています。(5) 浦和レッズというチームの中でサッカーをできて楽しかったし、よりいっそうサッカーを好きになることができました。これからも浦和レッズで学んだことを生かして頑張っていこうと思います。3年間本当にありがとうございました。(6) 狭山ジュニアユースFC



## 「継続は力なり」信じて頑張る

### 小池純輝 (FW)

(1) 高円宮杯の星稜高との試合 やっぱり最後の試合だから。(2) 一年生のときに行ったドイ



ツ遠征。(3) 我慢ができるようになった(精神的に)(4) ユース出身の代表としてJリーグで活躍できるように努力を続ける。(5) 澤村さんが話してくれた「継続は力なり」という言葉を信じて頑張っていきたい。(6) 坂戸ディプロマツ



## ユースの3年間は最高の財産

### 小松靖和 (DF)



(1) 一年生のときのドイツ遠征で戦ったシュツットガルトのユース戦。この試合をきっかけに、自分のサッカーに対する思いや考え方が変わり、それによって大きく成長できたと思うし、世界のチームとの差を体験することができたから。(2) ヲテライトの試合に出場させてもらったこと。あれはとても貴重な経験でした。(3) 技術面は中学時代に比べ成長したとは思いますが、それ以上に精神面が成長したと思います。(4) 大学でもプロ目指して精いっぱい頑張りたいと思います。(5) ユースで過ごした3年間はとてもいい経験でした。環境に恵まれ、仲間とともにプレーできたことは、自分にとって最高の財産です。監督をはじめコーチの皆さんには本当にお世話になりました。本当にありがとうございました。(6) 草加ジュニア



## 当たり前のことを当たり前に

### 小松裕志 (DF)

(1) スペイン遠征での試合で 特にアトレチコ・マドリードとの試合です。自分がやってきたことが本当に甘いものだと思感しまし

# 成長できた3年間 ~ レッズユースを卒業した3年生15人の声

(1)レッズユースの3年間で、一番思い出に残っている試合と、その理由 (2)試合以外で、思い出に残っていること (3)3年間で自分が成長したと思う部分 (4)今後の自分について (5)その他 何でも (6)中学時代のチーム



た。そして広瀬さんがふだんから言っていた「当たり前前を当たり前前にやる」ということの重要性がはっきりわかりました。(2)いろいろありますが、澤村さんに人間性を良くしろと言われたことが、一番印象に残っています。また一年生のときの夏のドイツ遠征での出来事や、スペイン遠征でチームの仲間とホテルで過ごしたことも覚えています。(3)サッカーの技術もそうですが、1人の人間として裏と表がなくなったと思います。でも一番は何かをするときに、自信という強い意志を持って取り組めるようになったことです。(4)今の一番の目標は志望校に合格することなのでそれに向かって勉強していき、司法試験合格を目指していきたいです。大学に入ったらサッカーも続けたいので、今はどういう形になるかわかりませんが、定期的に体も動かしていきます。(5)僕はジュニアユースからレッズでお世話になって、コーチやスタッフ、グラウンド整備の人や、もちろん家族もそうですが、多くの人たちのおかげでここまで来られたと思っています。また、チームのメンバーとは他の学校の友だち以上の思いがあります。レッズのクラブでは、グラウンド内のことだけではなく、グラウンド外でのことでも多くのことをご指導いただき、本当にありがとうございました。このチームでの経験は、僕の大きな財産で、これからもこれを糧としているいろいろなことに挑戦していきたいです。今後も機会があればみんなで集まって食事でもしたいなと思います。(6)レッズジュニアユース

ができたことによっていろんな経験をすることができました。レッズで過ごした時間は僕の財産になると思うし、レッズで学んだことはこれからも生かしていきます。いい指導者、いいスタッフ、いいチームメートと一緒にサッカーができてとても楽しかったです。ありがとうございました。(6)レッズジュニアユース



## 日の丸を背負ってプレーしたい

堤 俊輔 (DF)



(1)クラブユースの大会全日本ユースの大会は全部思い出に残っています。負けてしまったけど楽しめました。(2)澤村さんとの出会い。ロッカールームでのみんなとの雑談。(3)技術とかたくさん成長したと思うけど、一番は精神面が強くなった。1人の人間としてすごく大きくなったし、大人になれました。(4)トップの試合にレギュラーとして出て、日の丸を背負ってプレーをしたいです。(5)いろんな人に出会って本当に良かったです。すごく早かったけど、楽

しかった3年間でした。ありがとうございました。これからも頑張ります。(6)レッズジュニアユース



## 期待を背負って頑張る

西澤代志也 (MF)



狭山ジュニアユースFC

(1)星稜高戦。最後の試合にしてしまった。(2)澤村さんとはいろいろありました。(3)1人の人間として大きくなった。(4)応援してくれている人たちの期待を背負って頑張ります。(6)



## この経験を有意義にするために

野島康宏 (DF)



(1)二年生のJユースカップのセレッソ大阪戦：チームが一丸となって勝つことができたということ、とても劇的な試合だったから。僕自身にとっても公式戦初のフル出場印象深い。(2)スペイン遠征のときにやったハイテンションなトランブ。クラブハウスでみんなで過ごしたこと。(3)自分ではどこがどう成長したかわからないけど、ユースで3年間サッカーを続けたことで何か成長できたと思う。大人になって、レッズでの経験は有意義だったと思えるようにこれから頑張っていきたい。(4)大学サッカーを続けるので、気楽にやっていきたい。大学では勉強も頑張りたい。(5)6年間でお世話になった人に感謝しています。レッズでサッカー

ができたことによっていろんな経験をすることができました。レッズで過ごした時間は僕の財産になると思うし、レッズで学んだことはこれからも生かしていきます。いい指導者、いいスタッフ、いいチームメートと一緒にサッカーができてとても楽しかったです。ありがとうございました。(6)レッズジュニアユース



## もう一度鍛え直しプロを目指す

萩尾勇真 (MF)



(1)昨年のJユースカップ予選リーグのコンサドーレ札幌戦です。その試合の後半に相手の厳しいチャージにあい腰を痛めてしまい、最も楽しみにしていた高円宮杯全日本ユースに出場できなくなってしまったからです。(2)クラブユース選手権の前に「男塾」の方々がユースのためにお揃いのインナーシャツを作ってくれたことがうれしくてとても思い出に残っています。(3)3年時には、得点に絡める機会が増え得点力も増しました。特に、直接FKの精度が上がって自分の武器となったこと。(4)大学4年間、もう一度自分を鍛え直し、再度プロを目指します。(5)僕がレッズユースに在籍していたのは一年半と短かったけれど、良い指導者、チームメート、サポーターに恵まれ、また小さいころから憧れていたレッズのユニフォームを着てサッカーをできたことが本当にうれしく、また誇りに思います。いつかまたレッズのユニフォームを着てピッチに立つことを目標にこれからのサッカーも頑張ります。(6)ガエルディジュニアユース



レッズのエンブレム誇りに思う

増田孝輔 (MF)



(1) 高一の夏に行ったドイツ遠征でのシュツットガルト戦。いろんな意味で厳しい遠征の中で、2-3で負けはしましたが、戦う気持ちを前面に出した良い試合だったと思います。僕はこの試合でロングシュートを決めることができ、それまでのシュート練習の成果を結果に表わすことができたとうれしかったです。(2) 小さい頃から大のレッズファンだったので、試合はもちろんのこと、練習や移動のときにもレッズのエンブレムをつけて、レッズの一員として行動できたことを誇りに思っています。あとは素晴らしいコーチングスタッフの方々と素晴らしいチームメイトと一緒にサッカーすることができてとても良かったです。(3) 精神面での成長が一番大きいと思います。中学時代までは当たり前のように試合に出られていたけれど、ユースに入ってからには試合に出られなかったり、メンバーに入れないことがあり、いろいろ悩みました。しかしモチベーションを落とさず練習に取り組むことや、ベンチスタートの選手の役割などを経験したことは、とても価値のあることだったと思うし、今後に生かすことができると思います。(4) 大学でもサッカーを続けるので、4年後にプロになれるように4年間一生懸命頑張ります。(5) これまで自分を支えてくれた家族やコーチングスタッフ、またレッズ関係者の皆様には本当に感謝しています。ありがとうございました。そして試合のときに心強い応援をしてくださったサポーターの方々、本当にありがとうございました。(6) 三菱養和SC



周りのサポート忘れない

森 慎太郎 (DF)



(1) 13年のときのクラブユース選手権、対ジェフ千葉ユース戦。公式戦に少しかけ出ることができた。まさか出られるとは思っていなかった。(2) Jハビリ。僕のユースの3年間はケガとの戦いだった。毎日毎日みんなが練習している中、藤家、安齋両トレーナーのもと、頑張るしかなかったが、本当に良く耐えたと思う。だからこそクラブユース選手権で1試合出られた時にうれしかった。(3) 学校の勉強とサッカーを両

立できたことで、「やればできる」という自信がついた。サッカーを通じてたくさんの人と出会い、自分の考えだけで行動するのではなく、協調性がいかに大事か気がついた。(4) 大学へ進学し経営とスポーツマネジメントの勉強をしたい。サッカー部へ入れたら、また頑張ろうと思う。(5) 僕は中一から高三までレッズでお世話になりました。この6年間というのは今までの人生の中でも一番濃い時間であり、たくさんの仲間と生活し、切磋琢磨し、お互いが成長することができました。これもすべて僕たちの周りでサポートしてくれた人たちのおかげです。このことを忘れずに違う環境へ行ってもレッズの活動を糧として頑張っていきたいです。(6) レッズジュニアユース



大学でも文武両道で頑張る

山田純輝 (MF)



(1) 2004年のJユースカップ準々決勝のジュビロ磐田戦です。骨折した後、初の公式戦出場ゴールを決め、5-2で勝利し、準決勝に進めたからです。(2) レッズでは4回の海外遠征で、異文化に触れ、たくさんの人とコミュニケーションを取り合い、楽しかったし勉強になりました。(3) サッカー、勉強の両方に目標をもって取り組めるようになった事です。また人との接し方や礼儀が身についたと思います。(4) 大学に行っても、1日1日目標を立て、文武両道で頑張ります。サッカーではより上のレベルを目指して頑張ります。(5) レッズでの6年間で学んだことは、将来必ず役立てたいと思います。ありがとうございました。(6) レッズジュニアユース



星陵戦ではすべて出し切った

吉田周太 (DF)

(1) 自分が出た公式戦はすべて思い出に残っている。強いて挙げるとしたら高円宮杯の星陵



高戦。結果的に最後の試合になってしまったし、その試合は 自分的には全て出し切ったから。(2) スペインでのブラジル代表戦を見たとき。自分たちの年代の世界レベルを初めて身近で体感した。すごかった(笑)。(3) サッカーもそうだが、人間的にいろいろ変わった。まだまだ半人前ですけど(笑)。(4) 自分は大学に進学し、サッカー部に入ることが決まっています。プロを目指しながら人間的にも一人前になれるように日々精進していきたいと思っています。(5) 僕は小さなころからレッズにお世話になってました。レッズの関係者の皆さん。自分を支えてくれた家族や友達、そして一緒に戦ってきたチームメイト。本当にありがとうございました。(6) レッズジュニアユース



一回り大きな人間になれた

渡部竜二 (MF)



(1) 1年の夏のドイツ遠征の時のシュツットガルト戦。夏のドイツ遠征は暑かったし、とても厳しい練習をした。そういった中でも、人の心を動かすくらいの白熱した試合ができたから。(2) 毎日の練習、レッズの仲間と過ごした全ての時間。(3) まだ全然一人前ではないけれど、澤村さんと出会って、ひとまわり人間として大きくなれたと思っています。親に感謝の気持ちを持てるようになりました。(4) プロサッカー選手(5) 自分のことを支えてくれた、親やレッズの全てのスタッフにとっても感謝しています。浦和レッズユースに所属していなければ、今の自分はないと思います。本当にありがとうございました。(6) レッズジュニアユース

